

# 正誤表

『旧制高等学校寮歌私観』〈I〉寮歌一覧・〈II〉寮歌研究（2020年3月13日発行）に訂正がごさいます。

創英社 / 三省堂書店

## ■ 〈I〉寮歌一覧

頁	訂正箇所	誤	正
105	7番目	東京音楽学校	伝一高生某氏
137	11番目	「武夫原頭に草萌えて」(明治35年) → 138頁 明治37年に移動	
		東京音楽学校	伝一高生某氏
311	3番目	東京音楽学校	伝一高生某氏

## ■ 〈II〉寮歌研究 390ページ 下記を追加

三光寮を歌ふ  
元曲は三短調 あゝ南海の夢の春 松山高専学校 昭和七年 津川 保治 作詞 三光寮寮生一同 作曲

あ あ な ん か い の ゆ め の は る  
 は な の う た げ に た む ろ し て  
 こ よ い け っ き の わ こ う ど が  
 か ん き の き わ み お ど り ま う

- 一、あゝ南海の夢の春  
今宵血氣の若人が  
花の酒宴に屯して  
歡喜の極躍り舞ふ
- 二、疲れて眠るよもすがら  
緑酒琥珀の盃に  
敷き寝の花を蹴て立てば  
宿す千里の月の影
- 三、橄欖の花手折りては  
希望に燃ゆる君と我  
常開破る暁を
- 四、明治の帝神去りし  
籠りて立つる三光の  
高き理想を語らなむ  
日出る國を守らんと
- 五、浮世の道の果遠く  
黙しありげに星屑は  
眞紅の意氣を知るや君  
夜明けの空に瞬きぬ
- 六、古城過りて雁の  
思は遠き故郷に  
嗚音悲しき月の夜  
憂兒の夢や涙あり
- 七、波北海に鳴りとよみ  
祖國の嵐いざ立ちて  
海動高くなき叫ぶ  
仰げ理想の北極星
- 八、梅の香かほる三光の  
自治燈永久に醜雲を  
拂いて照らす皇國の  
一大巨火と輝かむ

(寮歌D) (小菅高之「旅の歌集」より)

應援歌・逍遙歌  
唐紅の花衣 旅順工科學堂へ渡科 高橋 清 作詞・作曲

1. からくれないの はなごころも  
 1. みよーがのいろは たえなれど  
 1. らんじゃのか おりーなごりにて  
 1. のばら ちりゆく いささがわ

- 一、唐紅の花衣  
蘭麝の香名残にて  
若荷の色は妙なれど  
野蕪撒り行くいさゝ川
- 二、紅葉枝に契るとも  
秋風一過拂ふ時  
紅、永く止らず  
霧り散る木の葉哉
- 三、嗚呼残壘の緑萌え  
葉に置く露や空に凝り  
池水に匂ふ白蓮の  
咲いて燐く星一つ
- 四、崑崙の峯高くとも  
中原の原廣くとも  
渭水の流深くとも  
君が功に比べんや
- 五、いざもろ共に紫の  
玉簫遂に倒るまで  
葡萄の酒の盃に  
共に祝はんその譽  
共に祝はんその譽

(寮歌E) (小菅高之「旅の歌集」より)